

52. 荊防敗毒散

参考文献名	荊 芥	防 風	羌 活	独 活	柴 胡	薄 荷 葉	連 翹	桔 梗	枳 殼	川 芎	前 胡	金 銀 花	甘 草	乾 生 姜	茯 苓	人 参	忍 冬
処方解説 注1	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1	1			
診療医典	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1	1			
処方集 注2													1.5	生姜 2	2		
応用の実際 注3	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5		1.5	1.5	枳実 1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1	1.5	1.5	1.5
診療の実際	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1.5	1	生姜 1.5			
処方分量集	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	1		2		

【注1】 化膿症で初期悪寒発熱，頭痛，発赤腫脹疼痛のものに用いる。癰疽，乳腺炎，乳癌，頭瘡，蕁麻疹，疥癬，上顎洞化膿症，湿疹，アレルギー性体質などに応用される。

【注2】 化膿症で悪寒発熱，頭痛，発赤腫脹疼痛のものに用いる。

【注3】 諸種の化膿性腫物によって発熱，悪寒，頭痛，拘急（ひきつれ）などがおきて傷寒（熱病）に似た症状を呈するものに用いる。癰，癤，面疔，乳腺炎など。

処方番号：53

処方名：桂麻各半湯（けいまかくはんとう）

処方構成：

桂枝 3-3.5、芍薬 2、生姜 0.5-1（ヒネシヨウガを使用する場合 2）、甘草 2、麻黄 2、大棗 2、杏仁 2-2.5

用法・用量：

湯

しぼり：

体力中等度以下のものの次の諸症

効能・効果：

感冒、せき、かゆみ

原典：傷寒論

出典：

解説：

桂枝麻黄各半湯を略したもので、桂枝湯および麻黄湯をそれぞれ半量ずつ合方されている。体力中等度以下の人で、頭痛、悪寒、発熱があるときのせきや、皮膚のかゆい人に用いる。

53.桂麻各半湯

参考文献名		桂枝	芍薬	生姜	甘草	麻黄	大棗	杏仁
傷寒論 太陽病上	注1	1兩 16錢	1兩	1兩	1兩	1兩	4枚	24枚
診療医典	注2	3.5	2	2	2	2	2	2.5
症候別治療	注3	3.5	2	2	2	2	2	2.5
応用の実際	注4	3.5	2	2	2	2	2	2.5
処方分量集		3.5	2	2 ^{*1}	2	2	2	2.5

*1 乾生姜は1.0

〔注1〕 太陽病：得之八九日，如瘧状，發熱惡寒，熱多寒少，其人不嘔，清便欲自下，一日二三度發，脈微緩者，為欲愈也，脈微而惡寒者，此陰陽俱虛，不可更發汗，更下更吐也，面色反有熱色者，未欲解也，以其不能得小汗出，身必痒，宜此湯。

〔注2〕 蕁麻疹：初期發疹が出て，痒みが強く，熱も少しある場合に用いる。皮膚瘙癢症：初期で外見的症狀は軽く強い瘙癢を訴えるもの。多少熱を伴うようなときに用いる。

〔注3〕 私はかつて，一青年の瘙癢を，桂麻各半湯で治したことがある。そのときも皮膚にはほとんど発斑も発疹もなかった。また老人が夜間になると瘙癢を訴え，皮膚に著変のないものに，桂麻各半湯を用いたという百々鳩窓の治験をよんだこともあった。

〔注4〕 表証があつて，患者の体力があまり強くなく，脈の緊張も弱く，かつ喘咳がでるもの。表証は，頭痛，惡寒，發熱があり，脈が浮いているものである。また汗が出ないで，皮膚の痒ゆいものによい。

処方番号：54

処方名：鶏鳴散加茯苓（けいめいさんかぶくりょう）

処方構成：

檳榔子 4、木瓜 3、橘皮 2-3、桔梗 2-3、茯苓 4-6、呉茱萸 1、蘇葉 1、
生姜 1（ヒネショウガを使用する場合 3）

用法・用量：

湯

しばり：

体力中等度のものの次の諸症

効能・効果：

下肢の倦怠感、ふくらはぎの緊張・圧痛、下肢浮腫の脚気様症状

原典：外台秘要方

出典：漢方診療の実際

解説：

出典は『時方歌訣』とされるが、本方と同じ処方 は 収載されていない。本方は九味檳榔湯とともに脚気 に 用いられてきたもので、その類似症状にも用いる。

鶏鳴散に茯苓を加えたものである。鶏鳴散は『外台秘要方』の唐侍中一方に桔梗を加えた処方である。

出典の基と思われる、『勿誤藥室方函口訣』によれば、鶏鳴散の出典は『時方歌訣』（陳修園、清時代）としている。しかしこの本はよく使われる処方を集めたものであるから浅田宗伯も「元は朱氏集驗に出ず」とし「この方の弁は唐侍中一方の条下に詳らかにす」としている。そしてその唐侍中一方の項で「朱氏集驗。桔梗を加え鶏鳴散と名づく」と書いている。

54. 鷄鳴散加茯苓

参考文献名		檳榔	木瓜	橘皮	陳皮	桔梗	茯苓	吳茱萸	紫蘇葉	生姜
時方歌括 卷下	注1	7枚		3錢 ^{*1}		半兩		3錢	3錢	半兩
中国大辞典	注2	7枚	1兩		1兩	5錢		3錢	3錢	5錢
診療医典	注3	4	3	2.5		2.5	6	1	1	3
症候別治療	注4	4	3	2		2	4	1	1	3
処方解説	注5	4	3	3		3	6	1	1	1 ^{*2}
実用療法		4	3	2.5		2.5	6	1	1	3
現代入門		4	3	2		2	6	1	2	3
明解処方	注6	4	3	2.5		2.5	5	1	1	1.5 ^{*2}
処方分量集		3	3	2.5		2.5	6	1	1	2 (1) ^{*2}
処方集成		4	3	2.5		2.5	(6)	1.5	1.5	3

*1 橘紅 *2 乾生姜

〔注1〕 治脚氣第一品薬，不問男女皆可服，如感風湿流注，脚痛不可忍，筋脈浮腫者，並宜服之効如神，鷄鳴散是絶奇方。

水二大碗，慢火煎至一碗半，取渣，再入水兩碗，煎取一小碗，兩汁相和，安置床頭，次日五更，分三五次冷服之，冬月略温亦可，服薬至天明，当下黑糞水，即是腎家所感寒湿之毒氣也，至早飯時，必痛住腫消，只宜遲吃飯，使薬為作効，此方並無所忌。

〔注2〕 証治準繩方：治脚氣疼痛，及風湿流注，足痛筋脈浮腫者。

一方無陳皮：吹咀，清水三大碗，慢火煎至一碗半，去滓，再入清水二碗煎滓，取一小碗，兩次薬汁相和，置床頭，次日五更，分作三五服，皆冷服之，冬月略温服，服後用乾物压下，如服不尽，留次日漸服之，至天明，大便当下黑糞水，早飯時痛住腫消，食飯宜少遲。

〔注3〕 脚氣：足のしびれ，倦怠感，腓脛筋の緊張とこの部の握痛，動悸，下肢の浮腫などのあるものに用いる。これらの症状の1，2を訴えるものにも用いてよい。

〔注4〕 この方は脚気で，足がだるく，または足がしびれ，または足に軽い浮腫があるものによい。とかく脚気および脚気類似の症状を呈するものに用いて，まことによくきくものである。

〔注5〕 外台脚気門の唐侍中一方に桔梗を加えたもので，脚気を治す第一の処方である。脚気の実証に用いる。胸が苦しく，呼吸が困難で，心動悸，気の上衝があり，浮腫，腓脛筋握痛などあるものを目標とする。初期脚気，浮腫性脚気，衝心性脚気，神經性脚気，腎炎，浮腫などに応用される。

〔注6〕 この方の原方は外台秘要方に出ている唐侍中一方(6味)であり，これに桔梗を加えたものが朱子集験の鷄鳴散で，さらにそれに茯苓を加えたものが本方である。原典には“脚気を治する第一品の薬なり，男女を問わず，みな服すべし”とあるが，実際は先述の九味檳榔湯より虚証の脚気を目標とする。症状は下脚の浮腫麻痺，心悸亢進，胃部重圧感などである。

処方番号：55

処方名：外台四物湯（げだいしもつとう）

処方構成：

桔梗 3、紫苑 1.5、甘草 2、麦門冬 9、人参 1.5、貝母 2.5、杏仁 4.5

用法・用量：

湯

しぼり：

体力に関わらず、広く用いられる

効能・効果：

のどが痛く、声が出ない感冒

原典：外台秘要方

出典：実用漢方処方集

解説：

『勿誤薬室方函口訣』に「卒（にわか）に暴咳、吐乳、嘔逆を得、昼夜休むを得ざるを治す。すなわち桔梗湯中に紫苑、麦門を加う。」と主治が記載され、更に口訣として「この方は小児暴（にわか）に咳嗽を発し、声啞（せいあ）、休むを得ざる者を主とす。故に頓嗽の劇症、あるいは哮喘の急症に用ひて効あり。又大人一時に咳嗽、声啞する者に宜し。肺癆による声啞には験なし。」との記載がある。小児の記載にこだわらず急性感冒の強度の咽喉痛・嘔声に極めて効果の高い処方である。

55.外台四物湯

参考文献名	桔 梗	紫 苑	甘 草	麦 門 冬	人 参	貝 母	杏 仁	用法・用量
実用漢方処方集	3	1.5	2	9	1.5	2.5	4.5	

処方番号：56

処方名：堅中湯（けんちゅうとう）

処方構成：

半夏 5、茯苓 5、桂枝 4、大棗 3、芍薬 3、乾姜 3（生姜 1でも可）、甘草 1-1.5

用法・用量：

湯

しぼり：

体力虚弱で、ときに胃部に水がたまる感じのするものの次の諸症

効能・効果：

慢性胃炎、腹痛

原典：千金方

出典：勿誤薬室方函

解説：

良枳湯（りょうきとう）から枳実、良姜を去り、芍薬、乾姜あるいは生姜を加えたものである。小建中湯証に嘔気を伴ったものに近い。

56. 堅中湯

参考文献名		半夏	茯苓	桂枝	大棗	芍薬	乾姜	乾生姜	甘草
診療医典	注1	5	5	4	3	3	3		1
処方解説	注2	5	5	4	3	3	-	1	1.5
処方分量集		5	5	4	3	3	-	1	1

【注1】 桂枝湯に半夏と茯苓を配した処方では、腹直筋は緊張しているが、腹筋の弾力は乏しく、みぞおちに振水音を証明し、胃痛や嘔吐を訴えるものに用いる。呉茱萸・牡蛎を加えて用いるとなおよい。胃潰瘍、十二指腸潰瘍などに応用される。

【注2】 「虚勞内傷、寒熱、吐逆、吐血を治す」ものとされている。

主として胃潰瘍、慢性胃炎などに用いられ、慢性に経過して腹壁薄く緊張し、腹に力なく胃内停水があって食後に腹痛、吐気、嘔吐を発するような症状のものに用いてよい。胃潰瘍、十二指腸潰瘍、慢性胃炎、胃拡張症などに応用される。

処方番号：57

処方名：香砂養胃湯（こうしゃよういとう）

処方構成：

白朮 3、茯苓 3、蒼朮 2、厚朴 2、陳皮 2、香附子 2、白豆蔻 2（小豆蔻代用可）、人參 2、木香 1.5、縮砂 1.5、甘草 1.5、大棗 1.5、生姜 1

用法・用量：

湯

しぼり：

体力虚弱なもの次の諸症

効能・効果：

胃弱、胃腸虚弱、慢性胃腸炎、食欲不振

原典：万病回春

出典：

解説：

平胃散と四君子湯の合方に香附子、縮砂、木香、白豆蔻を加えた処方である。胃腸虚弱なものの食欲不振に用いる。六君子湯よりはやや実証の者で、少なめに食べていると胃腸の調子がよかったものが少しでも食べ過ぎると胃がもたれる場合に有効である。

57.香砂養胃湯

参考文献名	白朮	朮	茯苓	蒼朮	厚朴	陳皮	香附子	香附	白豆蔻	人参	木香	縮砂	砂仁	甘草	大棗	生姜	乾生姜	干姜
処方分量集	-	3	3	2	2	2	2	-	2	2	1.5	1.5	-	1.5	1.5	-	0.7	-
診療の実際	-	3	3	2	2	2	2	-	2	2	1.5	1.5	-	1.5	1.5	1.5	-	-
診療医典	-	3	3	2	2	2	2	-	2	2	1.5	1.5	-	1.5	1.5	1.5	-	-
症候別治療	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
処方解説 注1	3	-	3	2	2	2	-	2	2	2	1.5	-	1.5	1.5	1.5	-	1	-
後世要方解説 注2	3	-	3	2	2	2	2	-	2	2	1.5	-	1.5	1.5	1.5	1.5	-	-
漢方百話	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
応用の実際	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
明解処方	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
漢方処方集	3 2.5	-	2.5	-	2.5	2.5	2.5	-	2	1.5	1.5	2.5	-	2.5	2	-	-	1
漢方入門講座	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
漢方医学	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
精撰百八方	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
成人病の漢方療法	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
古方要方解説	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

〔注1〕 「脾胃和せず、飲食を思わず、口味を知らず、痞悶して舒びざるを治す」

胃の力を助け、停飲を去り、気をめぐらし、食欲を進めるものである。補と瀉を兼ねて脈も腹もやや軟弱なものである。慢性胃弱、胃アトニー、胃拡張、慢性胃腸炎などに応用される。

〔注2〕 本方は、慢性胃腸虚弱者が、食欲不振を主訴とする場合、一方において、胃腸の元気を補いながら一方において停滞している水毒および食毒を排除消化し、それによって胃腸機能を振興させることにより、食欲を進ませるのである。補と瀉を兼ね、脈も腹状もやや軟弱のものに用いる。

医療衆方規矩に、「按ズルニ此方ハ平胃散ニ四君子湯ヲ合シ、砂仁、香附子、白豆蔻、木香ヲ加フ。故ニ湿痰ヲ除キ、脾胃ヲ補ヒ飲食ヲ進ム。予此方ヲ与フルニ連年試ムルコトアリ、胸満チ清冷トシテ食セズ、此レ脾胃虚冷シテ和セズ、殊ニ胃中ニ寒痰アルナリ。諸病ト云ヘドモ、胸清冷トシテ不食スル時ハ、本薬ヲ止メテ此方ヲ用ヒテ飲食ヲ進メ、且ツ又本病ノ薬ヲ与フルナリ。若シ此ノ湯胸ニ支ヘルコトアラバ、枳朮ノ類ノ丸薬ヲ与フベシ」とある。

また、牛山方考には、「脾胃和せず、飲食ヲ思ハズ、口味ヲ知ラズ、痞悶シテ舒ビズ、或ハ又瀉日夜五六行、胸冷ヘ不食シ、咽渴スルニ、或ハ老人心腹痛ミ、全ク不食シ、脈平ニシテ薬を服スレバ吐スルノ症ニ共ニ此方効アリ」とある。

処方番号：58

処方名：厚朴生姜半夏人参甘草湯

(こうぼくしょうきょうはんげにんじんかんぞうとう)

処方構成：

厚朴 3、ヒネシヨウガ 3 (生姜を使用する場合 1)、半夏 4、人参 1.5、甘草 2.5

用法・用量：

湯

しばり：

体力虚弱で腹部膨満感のあるものの次の諸症

効能・効果：

胃腸虚弱、嘔吐

原典：傷寒論

出典：

解説：

(1) 厚朴生姜半夏甘草人参湯は、一般的には厚朴生姜半夏人参甘草湯と称する。(2) 本方は開腹手術後、食物を食べると嘔くような場合に用いるとよい。

58.厚朴生姜半夏人参甘草湯

参考文献名	厚朴	生姜	半夏	人参	甘草	紫蘇葉	大棗	茯苓	黄連
処方分量集	3	3	4	1.5	2.5	-	-	-	-
診療医典	3	3	4	1.5	2.5	-	-	-	-
診療の実際	3	3	4	1.5	2.5	-	-	-	-
応用の実際	3	3	4	1.5	2.5	-	-	-	-
処方解説	3	1 (乾)	4	1.5	2.5	-	-	-	-
漢方あれこれ			記載なし			-	-	-	-
参考(半夏厚朴湯)	3	2 (乾)	6	-	-	3	-	5	-
参考(半夏瀉心湯)	-	3	6	3	3	-	3	-	1

〔注1〕 (1)胃の運動や胃液の分泌が極度に低下し、腹中にガスと水が停滞して、心下(みぞおち)や腹が張って痛み食物がとれず、食べれば嘔吐、大便の通じないものに用いる。(2)発汗の後、下痢の後、卒中発作の後、開腹手術の後などに起こりやすい胃下垂、胃拡張症、鼓腸、急性胃腸カタル、急性吐瀉症に用いる。(3)応用として脳溢血後、胃切除切術の通過障害などにも用いる。

処方番号：59

処方名：香蘇散（こうそさん）

処方構成：

香附子 3.5-6、蘇葉 1-2、陳皮 2-3、甘草 1-1.5、生姜 1-2

用法・用量：

（1）散：1回 1-2g 1日3回

（2）湯

しぼり：

体力虚弱で気分がすぐれず胃腸の弱いものの次の諸症

効能・効果：

かぜの初期、血の道症

原典：太平惠民和劑局方

出典：

解説：

いつも胃の調子が悪くてみぞおちがつかえ、気分がすぐれないような人が、頭痛、発熱、悪寒などのかぜの症状を感じたときに急いで用いる方剤である。本方は芳香性健胃剤的なものであるが、神経症状その他にも効果があるようだ。原方では、粗末を煎じ、熱い煎出液をいつでもよいから日に3回服用するか、細末として食塩を加え、湯でといて服用することになっている。

なお、本方は汗が出ているとか、大へん衰弱している場合のかぜには用いられない。

59.香蘇散

参考文献名		香 附 子	紫 蘇 葉	陳 皮	甘 草	生 姜	蔥 白
和剤局方 卷之二	注1	4両	4両	2両	1両		
寄効良方 卷之九	注2	3銭	3銭	2銭	1銭	-	-
診療の実際		4	1	2.5	1	3	
診療医典	注3	4	1	2.5	1	3	
症候別治療	注4	4	2	2	1.5	3	
応用の実際	注5	4	2	2	1.5	2*1	
処方解説	注6	3.5	1.5	3	1	1*1	
医学処方解説	注7	4.5	3	3	1.5	1.5	
漢方あれこれ	注8	4	1	2.5	1	3	

*1 乾生姜

〔注1〕 治四時瘟疫傷寒，右為粗末每服三銭水一盞煎七分，去滓，熱服不拘時日三服，若作細末，只服二銭，入塩點服。

〔注2〕 香蘇飲，治四時傷寒頭痛發熱惡寒，右作一服，水二鐘，生姜五片，蔥白三根，煎至一鐘不拘時服，如頭痛甚者，加川芎白芷，名芎芷香蘇飲。

〔注3〕 本方は發表の劑で感冒の輕症に用いる。自覚症状として訴えるものは、胸中心下に痞塞の感があり、ときに心下や腹中に痛みを發し、気分が勝れず、動作にものうく、頭痛、頭重、耳鳴、眩暈などの神経症状を伴う。これがすなわち気のうっ滞に原因するものである。平常吞酸、嘈雜、嘔氣など胃障害のある人の感冒によく奏効する。しかし自汗のあるものやはなはだしく衰弱している者の感冒には用いられない。また感冒でなくても気のうっ滞を治するが故に婦人科的疾患のうち、いわゆる血の道と稱する諸神経症状および神経衰弱、ヒステリーなど官能的神経系統の疾患に用いてよい場合がある。

以上の目標にしたがって、この方は感冒の輕症、胃腸型の流行性感冒、魚肉の中毒、蕁麻疹、いわゆる血の道、月経閉止、月経困難症、神経衰弱、ヒステリーおよび柴胡劑、建中湯類の応ぜぬ腹痛などに應用される。

〔注4〕 原方には蔥を用いることになっているが、これを入れないでよい。

〔注5〕 (1)胃腸虚弱な人のかぜ、發熱の初期、葛根湯や麻黄湯は強すぎ、桂枝湯は胸にもたれるという人が、頭重、頭痛、惡寒、食欲不振を訴えて、熱が出かかったり、かぜぎみだというときに用いる。(2)平素虚弱で神経質、気分が憂うつで胃が弱く、食欲不振、精神不安、頭痛のあるもの。(3)魚肉中毒による發疹。

〔注6〕 胃腸の弱い、心下に痞えがちな、気の滞りのある人の感冒に用いる。本方は主として感冒、神経衰弱、ヒステリー等、魚肉中毒等に用いられ、また腹痛、血の道症、経閉、下血、薬煩、神経病、アレルギー性鼻炎、蓄膿症、嗅覚脱失、鼻閉塞などにも應用されることがある。

〔注7〕 此方ハ先ツ感冒ノ輕症ニテ葛根湯ニテハ激ニ過グト云フモノニ用ユ。傷寒瘟疫ト云フ重症ノ熱性病ニハ用ユルコト稀ナリ。氣ノ鬱ヲ發散スルモノナレバ、感冒ニ氣鬱ヲ兼ネタルモノニ用ヒテ最モ良シ。脈ハ多ク沈伏シ、又ハ細少ナリ。ソノ證候ハ胸中心下痞塞シ、激スレバ心腹痛ヲ發シ、黙々トシテ氣重ク、動作ニ懶ク、頭痛頭重アリテ氣爽ナラズ、眩暈耳鳴手足ノシビレ等アリ、皆氣滞ニヨルモノナリ。又平常吞酸嘈雜嘔氣ナドアツテ氣フサグ人ノ感冒ニ用ユレバ必ず効アリ。又婦人血ノ道ニ血薬効ナキニ本薬ニテ効ヲトルモノ多シ。

〔注8〕 風邪：ふだんから胃腸が弱くてカゼ薬を飲むことができず、かといってなんとなく気分が重く、うっとおしいという人には香蘇散が使われる。

処方番号：60

処方名：牛膝散（ごしつさん）

処方構成：

牛膝 3、桂枝 3、芍薬 3、桃仁 3、当帰 3、牡丹皮 3、延胡索 3、木香 1

用法・用量：

湯

しぼり：

比較的体力があるものの次の諸症

効能・効果：

月経困難、月経不順、月経痛

原典：婦人良方

出典：

解説：

桂枝茯苓丸と四物湯の合方より、茯苓、地黄、川芎を去り、延胡索、木香、牛膝を加えた処方である。本方の木香を去り、川芎、紅花を加えた処方が折衝飲で、本方と加減方の関係にある。折衝飲は子宮附属器炎が原因で起こる下腹部痛、生理痛で帯下を伴うものに用いるが、本方は経血が少ないものの生理痛に用いる。

60.牛膝散

参考文献名	牛膝	桂枝	芍薬	桃仁	当帰	牡丹皮	延胡索	木香
処方の分量集	3	3	3	3	3	3	3	1
診療の実際 注1	3	3	3	3	3	3	3	1
診療医典 注2	3	3	3	3	3	3	3	1
症候別治療	-	-	-	-	-	-	-	-
処方解説	-	-	-	-	-	-	-	-
後世要方解説	-	-	-	-	-	-	-	-
漢方百話	-	-	-	-	-	-	-	-
応用の実際	-	-	-	-	-	-	-	-
明解処方	-	-	-	-	-	-	-	-
漢方処方集	-	-	-	-	-	-	-	-
漢方入門講座	-	-	-	-	-	-	-	-
漢方医学	-	-	-	-	-	-	-	-
古方要方解説	-	-	-	-	-	-	-	-
精撰百八方	-	-	-	-	-	-	-	-
成人病の漢方療法	-	-	-	-	-	-	-	-

【注1】 月経困難症一経血が僅少で、しかも下腹部に瘀血があり臍を中心に疼痛がはなはだしく、あるいは下腹部・腰部に引きつり痛み、ときに胸部に及ぶものにはこの方を用いる。

【注2】 月経困難症一経血が少なく、しかも下腹部に瘀血があり、臍を中心に疼痛がはなはだしく、あるいは下腹や腰に引きつり痛み、ときに胸部までも痛むというものなどには本方がよい。

参考：橋本方輿輓 有持柱里先生口述

コレモ臍腹作痛ト云カ目的也。経水二三月或四五月閉ノ臍ノクルリニテ痛ミ、或腰、或心胸ヘササツル者アルナリ。シカレドモソレハ兼証ニテヲモノ目的ハ臍腹也。ソレヨリ假リ用テ産後悪露滞リテ痛ヲナス者ニ用ユ。サテ上ノ二方ト此方トノ別ハ上ノ二方ハ塊ナケレハ不用也。此方ハ塊アレハ不用也。セイセイアリシ處カ少腹急結クライニシテシッカリト塊ナキ也。若シシッカリト塊アレハ大黃牡丹皮湯ノユクヘキ處ニテ痛ナキトキハ桃核承気湯也。……

是ハ産後ノ下リ物少ナクノ臍腹ノ痛ム者ニ用ユ、此証ニノ腰痛ヲ兼ル者モアリ、或胸脇ヘサシコム者モアリ、又往來寒熱頭痛ナトノソウ事モアル也、皆此方ニテヨシ、別ニ其証ヲ制スルニ及ハス悪露サヘ下レハ他証ハ自ラ愈ル者也。凡ソ産後下リ物少ナクノ諸証ヲナス者ハ牛膝散聖薬也。余ハ産後下リ物不快ニヨリテ諸患ヲナス者ハ皆此方ヲ用ユ。

処方番号：61

処方名：呉茱萸湯（ごしゅゆとう）

処方構成：

呉茱萸 3-4、大棗 3-4、人参 2-3、生姜 1.5-2（ヒネシヨウガを使用する場合 4-6）

用法・用量：

湯

しばり：

体力中等度以下から虚弱で手足が冷えて、ときにみぞおちが膨満するものの次の諸症

効能・効果：

頭痛、頭痛に伴うはきけ・嘔吐、しゃっくり

原典：傷寒論、金匱要略

出典：

解説：

本方は、陰虚症で裏に寒飲（水分が停滞し、かつ冷えている）のある人に用いる。

本方に類似のものに四逆湯と半夏白朮天麻湯がある。前者は下痢、後者はめまいを主にあらわすのに、本方は吐を主徴とする。

本方の頭痛は激しく発作性であり、片頭痛が多い。

煎剤としては飲みにくい薬である。

61. 呉茱萸湯

参考文献名		呉 茱 萸	生 姜	乾 生 姜	人 参	大 棗
処方分量集		3	4	-	2	4
診療の実際	注1	3	4	-	2	4
診療医典	注2	3	4	-	2	4
症候別治療	注3	4	6	-	3	3
処方解説	注4	3	-	1.5	2	4
後世要方解説		-	-	-	-	-
漢方百話	注5	3	4	-	2	2又は4
応用の実際	注6	3	4	-	2	4
明解処方	注7	3	2	-	2	4
漢方大医典	注8	3	4	-	2	4

〔注1〕 胃に停水が貯溜して、心下膨満し、あるいはこの部に寒冷を覚えるもの。片頭痛、嘔吐、しゃっくり、脚気衝心、子癇、また急性吐瀉病で嘔気の止まない場合。

〔注2〕 片頭痛、吃逆、嘔吐、急性吐瀉病。

〔注3〕 発作性頭痛、片頭痛、頭痛に伴う嘔吐、肩こり、しゃっくり、手足の冷え。

〔注4〕 虚証で冷え症のもの。急・慢性頭痛、片頭痛、種々の原因による嘔吐、乾嘔（食中毒、尿毒症、胃酸過多、子癇）、しゃっくり、脚気衝心、めまい、薬物中毒、嘔吐の癖のあるもの、涎沫を吐く癖のあるもの。

〔注5〕 片頭痛、嘔吐癖、吐涎沫癖、嘔気、蛔虫症、胃酸過多症、尿毒症、子癇、吃逆、脚気衝心、慢性頭痛。

〔注6〕 片頭痛、霍乱、急性吐瀉病、胃下垂症、胃アトニー、しゃっくり、てんかん、子癇。

〔注7〕 頭痛、嘔吐、蛔虫による嘔吐、てんかん、しゃっくり。

〔注8〕 みぞおちが膨満して冷え、手足が冷たく、精神不安のあるもの。頭痛、片頭痛、嘔吐、つわり、しゃっくり、てんかんの小発作。

処方番号：62

処方名：五積散（ごしゃくさん）

処方構成：

茯苓 2、蒼朮 3-4（白朮も可）、陳皮 2、半夏 2、当帰 1.5-2、芍薬 1-2、川芎 1-2、厚朴 1-2、白芷 1-2、枳殻（実）1-2、桔梗 1-2、乾姜 1-1.5、生姜 1-2、桂枝 1-2、麻黄 1-2、大棗 1-2、甘草 1-2、香附子 1-1.2（香附子のない場合も可）

用法・用量：

湯（原則として）

しぼり：

体力中等度あるいはそれ以下で冷えがあるものの次の諸症

効能・効果：

胃腸炎、腰痛、神経痛、関節痛、月経痛、頭痛、更年期障害、感冒

原典：太平惠民和劑局方

出典：

解説：

『和劑局方』（商務印書館版）に述べている五積散の処方の構成と、使用している生薬の修治法は下記の通りである。

蒼朮（米のとぎ汁で洗って皮を去る）14 両、桔梗（蘆皮を去る）12 両、麻黄（節根を去る）6 両、枳殻（茎を去り刻んで炒る）、陳皮（白を去る）、厚朴（粗皮を去る）各 3 両、半夏（7 回洗う）3 分、甘草（炙ぶってから刻む）3 分、白芷 3 分、白芍 3 分、川芎 3 分、肉桂（粗皮を去る）3 分、以上の 12 味を用いているに過ぎない。

薬方名は氣・血・痰・寒・食の五積（体内でこの五つの病毒が鬱積することを指す）を治すという意味から附されたものである。体質的には肝と脾の虚弱なものが寒と温とに損傷されて起こる諸病に用いる。本方の中、蒼朮、陳皮、厚朴、甘草はすなわち平胃散で、飲食の停滞を散じ、半夏、茯苓、陳皮、甘草はすなわち二陳湯で、枳殻とともに胃内停水、痰飲を去る。

当帰、芍薬、川芎はすなわち四物湯去地黄で血行をよくし、貧血を補い、桂枝、乾姜、麻黄、白芷、桔梗は寒冷を温め、風邪を発散し、血行をよくする。

処方構成は複雑（特にわが国の漢方において）であるが、二陳湯、平胃散、四物湯、桂枝湯、続命湯、半夏厚朴湯の薬能を併わせそなえているものと見做され、上記五積によって生じた諸病に応用される。